



# 大門小だより

3月号

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

平成31年2月26日  
横浜市立大門小学校

## 春 巣立ちのときを迎えて

校長 佐藤 峰子

1月中頃だったでしょうか。朝学校に向かう途中、住宅の周りを走っている子どもを見かけました。数日同じ光景を見て、もしかして境川マラソンに向けて鍛錬しているのかなと思い至りました。確かめたい気持ちになりましたが、ペースを乱すのも申し訳なく、心の中で「がんばれ」とエールを送りながら出勤しました。その後、職員室での先生方の会話や、給食中の子どもたちの話から、走りこんでいる子どもが他にもいることが分かりました。「内緒だよ」と言いながら、家の人と走っていると教えてくれる子もいました。

2月15日金曜日、厳しい寒さの中で「境川マラソン」が実施されました。これは、体育の教育課程にある「動きを持続させるための能力を高める運動」に位置付けられます。本校は、境川の堤を走るコースを設定していますが、校庭を使って、決められた時間の中で自分のペースで走るという形で実施している学校が多く、校外のコースを走るというのは珍しいのではないかと思います。境川の堤を走るということが可能なのは、子どもたちの安全を確保するために、支えてくださる方がいるからです。当日は、瀬谷交通安全協会から3名の方が、多くのPTA校外委員の方が、要所要所に立って子どもたちの安全を確保してくださいました。ご協力をいただきました皆様、寒い中、長い時間本当にありがとうございました。応援に駆けつけてくださいました保護者の皆様にも、改めてお礼申し上げます。

寒かった日々の中でも、農園の入り口にある紅梅が鮮やかに咲きほこり、木々のつぼみも膨らみ始める3月、6年生は、巣立ちのときを迎えます。「巣立ち」、それはひな鳥が育てられてきた巣を飛び立ち、親鳥の力を借りずに自活していこうとする、そのときを意味します。それまでは、親鳥がせっせと餌を運び、大きく開けたひな鳥の口に餌を入れ、育てていくのです。自然界には、ひな鳥を襲う敵が無数にいます。親鳥は命がけて闘い、ひな鳥を守りぬきます。巣立ちの時が近づくと、飛び立つ訓練も欠かしません。独り立ちの厳しさも教えます。ひな鳥は親鳥の庇護のもと、厳しい訓練を経て、自分で生活できるようになるのです。人間はどうでしょう。小学校を卒業するということは、巣立ちの一步といえます。ただ、小鳥と違うところは、独り立ちまでには先が長いこと、家族だけでなく周りの多くの人に支えられてなされることです。

卒業を迎えるこの時期、6年生が忙しいのは勿論のことですが、5年生も多忙な日々となります。在校生の活動の中心が、6年生から5年生に委ねられるからです。5年生の担任は、卒業証書授与式に向けた様々な活動を通して、4月から大門小学校のリーダーとなるということの自覚を促していきます。他学年の子どもたちも、「卒業おめでとう」という気持ちと、最高学年として一年間お世話してくれたことに「ありがとう」という感謝の気持ちを込めて、お祝いの飾りを作ったり、メッセージを書いたりします。

3月20日水曜日、平成最後の卒業証書授与式を挙行いたします。117名の6年生が、夢と希望をもって本校を巣立つそのときまで、一日一日を大切に、子どもたちとともに過ごしていきたいと思えます。6年間見守っていただいた皆様、本当にありがとうございました。これからも見守っていただければ幸いです。